



2016年度 紙パック回収率

2016年度の紙パック回収率は
44.3%でした。

紙パックリサイクルに関する情報の収集と社会への提供のために、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」が、2017年も6月～10月に実施され、2016年度のリサイクル状況が明らかになりました。

2016年度の紙パック全体の回収率は44.3%（前年度比で1.2ポイント増）、使用済み紙パック回収率は35.6%（同1.4ポイント増）となりました。

※2016年度実態調査では、紙パックメーカー9社・飲料メーカー304社・市区町村1,736・小学校2,008・スーパーマーケット等1,043・市民団体及び福祉施設22等をアンケート調査対象に、また4か所をヒアリング調査対象としました。なお、福島原発事故の影響により、一部地域について実施を控えています。
※「産業損紙・古紙」とは、紙パック製造工場や飲料工場で発生した損紙や古紙をいいます。
※「損紙」とは紙パック製造工場や飲料工場で飲料充填前に発生した端材などを、「古紙」とは飲料充填後に発生した紙パックをいいます。また、「使用済み紙パック」とは、家庭、学校、店舗、事業所などで飲み終わった紙パックを指します。

2016年度の紙パック回収率

紙パック回収率
(産業損紙・古紙を含む)

44.3%
(2015年度 43.1%)

=国内紙パック回収量÷紙パック原紙使用量
=99.9千トン / 225.4千トン

使用済み紙パック回収率
(使用された紙パック)

35.6%
(2015年度 34.2%)

=使用済み紙パック回収量÷飲料メーカー紙パック出荷量
=68.5千トン / 192.6千トン

参考 再活用や他の古紙への排出を反映した回収率

使用済み紙パックの中には、廃棄する前にまな板代わりに再活用されるものや、他の古紙として回収され紙パックとして分別されながらも回収量に計上されないものがあります。前者を分母から控除し、後者を分子に加えたときの各回収率は次のようになります。
紙パック回収率=46.8%、使用済み紙パック回収率=38.1%

市町村回収や集団回収の
紙パック取引価格が
上昇しています。

紙パック古紙は、紙の繊維が長く強いことなどから、良質の再生紙原料に位置付けられており、比較的高値で取引されています。

紙パックの取引価格は、自治体ごとに決め方がさまざまなので、標準的な価格を出すのは困難です。ここでは紙パック単独の価格で、取引価格以外の付加条件がつかないものを対象に、相手先に来てもらう引渡価格と、相手先へ持ち込んだときの持込価格に分けて、市町村回収（東京特別区の回収を含む）と集団回収の平均を集計しました。

これらの回収の主な取引先は古紙回収業者と古紙原料問屋です。市町村や集団回収について、全ての取引の平均価格をみると前年度よりも高値で取引されています。

紙パック古紙の平均取引価格

年度			2013	2014	2015	2016
市町村回収	古紙回収業者	引渡価格	7.0	6.9	8.0	7.8
		持込価格	6.5	7.0	7.7	8.1
	古紙原料問屋	引渡価格	8.3	9.0	8.4	10.3
		持込価格	8.4	9.3	9.4	9.4
	製紙メーカー	引渡価格	6.4	8.6	6.8	7.6
		持込価格	9.0	12.0	7.8	9.4
集団回収	平均価格		7.4	7.9	8.3	8.6
	取引先不問	引渡価格	5.1	5.2	5.5	5.7
		持込価格	5.7	6.0	5.7	6.7
	平均価格		5.2	5.4	5.6	6.0

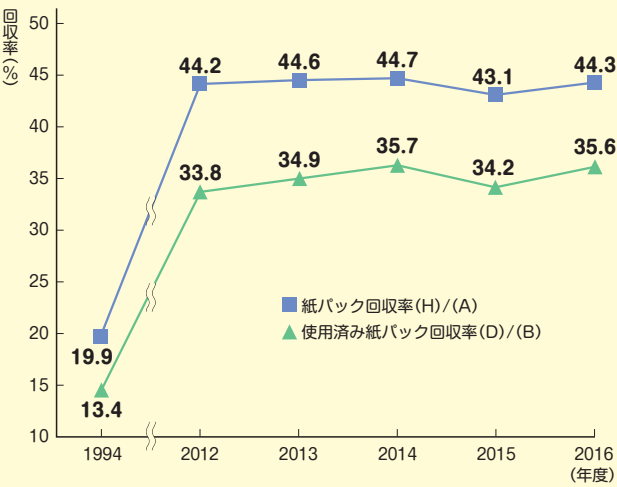
(円/kg)

2016年度の紙パック回収量は
99.9千トンでした。

国内紙パックの回収率は、右の図のように推移しています。回収量と回収率の詳細は下の表のとおりです。

2016年度の国内紙パック回収量は、前年度より1.6千トン（1.6%）増加し99.9千トンになりました。産業損紙・古紙は横ばいで、国内紙パック回収量増加のほとんどは使用済み紙パック回収量の増加によるものです。使用済み紙パック回収量は1.5千トン（2.2%）増加し68.5千トンでした。店頭回収や市町村回収が減少傾向にある中で、古紙原料問屋の独自回収の増加がこれらの減少分を補っています。

紙パック回収率の推移



主要データの推移 (単位:千トン)

区 分	1994	2012	2013	2014	2015	2016	対前年度
飲料用紙パック原紙使用量(A)	216.0	242.9	238.2	233.7	228.3	225.4	-1.3%
紙パックメーカー産業損紙発生量	16.5	36.2	33.5	31.4	29.7	29.8	0.5%
飲料メーカー産業損紙等発生量	-	2.4	2.4	2.2	1.9	1.9	-0.5%
飲料メーカー飲料用紙パック出荷量(B)	197.9	204.3	202.1	199.3	196.0	192.6	-1.8%
家庭系(C)	168.7	180.3	178.5	176.2	176.2	169.8	-3.7%
事業系出荷量	29.2	24.0	23.6	23.1	19.8	22.8	15.2%
学校給食	10.7	11.9	11.8	11.7	11.6	11.6	0.1%
飲食店等	18.5	12.1	11.7	11.3	8.3	11.2	36.2%
使用済み紙パック回収量(D)=(E)+(F)	26.5	69.1	70.6	71.1	67.0	68.5	2.2%
家庭系(E)	25.9	57.2	59.4	60.4	56.3	57.8	2.8%
店頭回収	13.8	32.6	32.3	31.9	30.4	29.3	-3.5%
市町村回収	4.3	13.7	13.6	12.8	12.2	11.6	-4.7%
集団回収等	7.8	10.9	13.5	15.7	13.7	16.9	23.2%
市町村把握	7.8	8.7	9.1	8.4	8.8	8.6	-2.5%
古紙原料問屋による独自回収等	-	2.2	4.4	7.3	4.9	8.3	69.9%
事業系(F)	0.6	11.9	11.2	10.7	10.7	10.6	-0.7%
学校給食	0.6	9.6	9.3	8.8	8.8	8.7	-0.3%
飲食店等	-	2.3	1.9	1.9	2.0	1.9	-2.7%
産業損紙・古紙紙パック回収量(G)	16.5	38.4	35.7	33.3	31.3	31.4	0.3%
紙パックメーカー	16.5	36.2	33.5	31.4	29.7	29.8	0.5%
飲料メーカー	-	2.2	2.2	1.9	1.7	1.6	-2.9%
国内紙パック回収量(H)=(D)+(G)	43.0	107.5	106.3	104.4	98.3	99.9	1.6%
紙パック古紙輸入量	-	11.4	12.8	18.6	19.8	19.8	±0.0%
紙パック総受入量	43.0	118.8	119.1	123.0	118.1	119.6	1.3%
紙パック再資源化量	30.1	95.2	93.7	95.4	95.1	96.4	1.3%
回収率	紙パック回収率(H)/(A)	19.9%	44.2%	44.6%	44.7%	44.3%	1.2ポイント
	使用済み紙パック回収率(D)/(B)	13.4%	33.8%	34.9%	35.7%	35.6%	1.4ポイント
	家庭系使用済み紙パック回収率(E)/(C)	15.4%	31.7%	33.3%	34.3%	34.1%	2.2ポイント

※紙パック再資源化量=紙パック総受入量×歩留率。歩留率は、2001年度以降についてはアンケートにより求めています。

※1994年度の産業損紙発生量にはアルミつき紙パックを含みます。

※100トン未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。また、同じ理由により表中の数値から回収率や前年度比を計算すると合わない箇所があります。

2016年度 紙パックマテリアルフロー

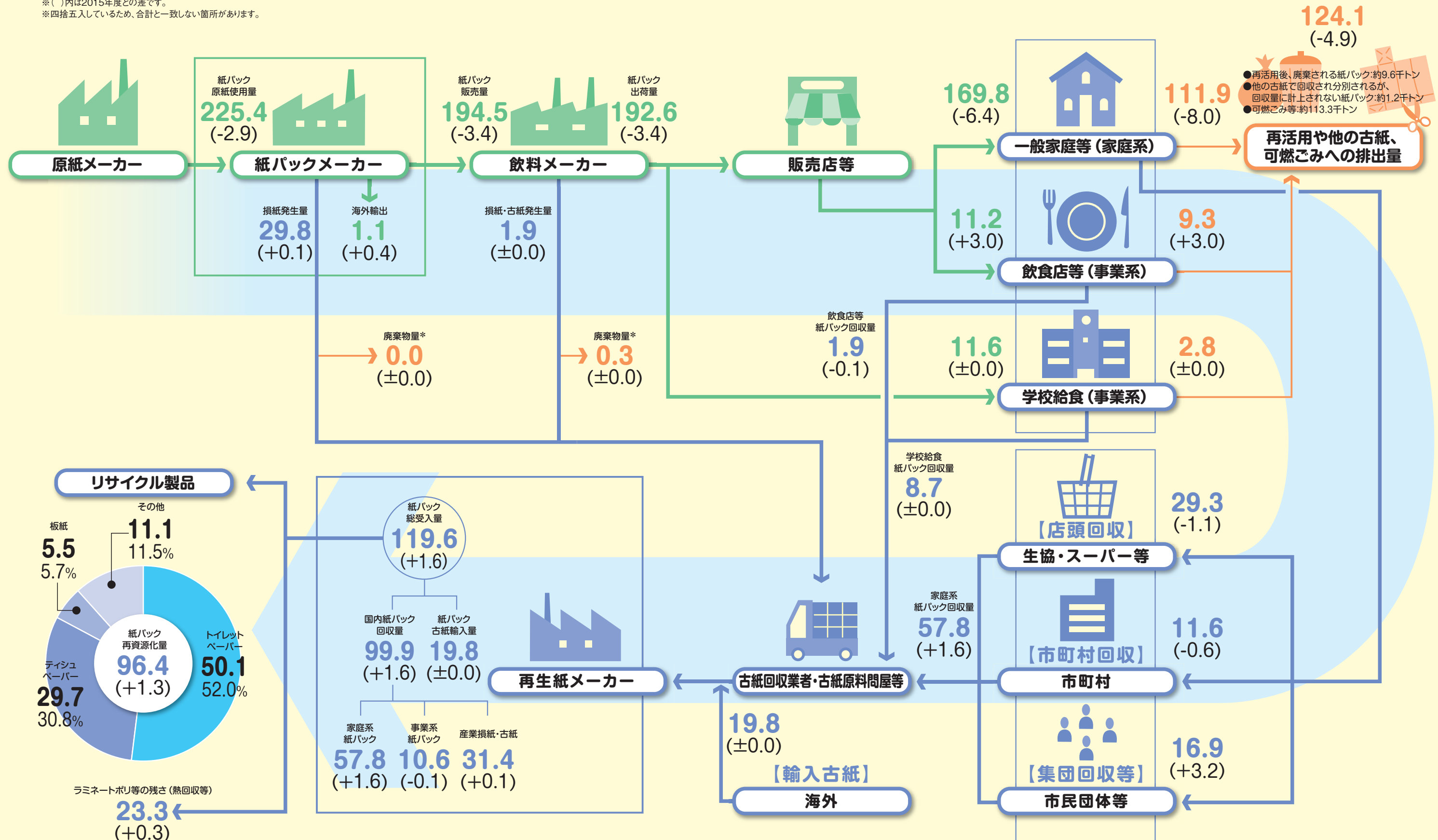


2016年度の紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

※単位：千トン

※()内は2015年度との差です。

※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。



* 廃棄物量には熱回収されるものも含む。